



## 学校体育功労賞を受賞して

宇城市立松橋中学校 校長 中島仙一郎

平成30年度全国学校体育研究功労賞という大変名誉ある賞をいただき、身に余る光栄です。これもひとえに熊本県教育委員会をはじめ、中学校体育研究会や中体連の諸先輩方、各学校の先生方、そして協賛業者の皆様など多くの方々から今日まで支えていただいたおかげだと思っています。私は教員採用試験に合格するまで5年間臨採を経験し、幼児から中高年に至るまであらゆる年齢層のスポーツ指導に携わり、多くの事を学び教師になることができました。教職に就いてからは授業や部活動に青春の全てを捧げ取り組んできました。これまでを振り返りますと、若い頃は明確な効果がないにもかかわらず、私の好みや経験によって生徒に強要していたトレーニングが数多くありました。例えば練習中に水分をとらせなかったり、コンクリートの上を長く走らせたり、運動動作に苦痛を伴うトレーニングを行ったり、根性論として呼ぶに相応しいものばかりでした。しかし、年を追うごとに科学的なトレーニング方法やデータによる研究成果に重きを置き、指導方法を工夫しながら進めていけるようになり、むしろ害があるトレーニング方法であったと分かるようになりました。さらに、人権意識の高まりによって、生徒の人権や人格を無視した指導方法を反省し徐々に変化していったものです。

その他にも体育保健課から財団法人熊本県体育協会に出向し、競技力向上対策の仕事に従事させていただきました。特に国民体育大会の開催競技団体の役員さんとは夏季国体、秋季国体、冬季国体で九州はもとより全国を駆け巡り、激励や応援だけでなく、それぞれの競技の特性に応じたサポート体制やマネジメントなど多くのことを学びました。今でも中体連の役員として各種大会会場を視察して回ると当時お世話になった方々に大変良くしてもらいます。スポーツをとおして人と人の繋がりはとても大切だと思いますし、改めて感謝したいと思います。また、文部科学省主催のスポーツコーチサミットに参加する機会も与えていただきました。日本の各競技団体のナショナルコーチやオリンピックのメダリスト、スポーツ医科学分野のドクターなど世界で活躍する人たちとの研修は、大きな財産となり、熊本に帰ってから各競技団体関係者に復講させてもらいました。

ところで、私が関わった生徒は初任以来、概算ですが8,000人を超えています。私の言動が生徒の人生にどう影響したのか自問自答したときに、教師の仕事というのは生徒の人格形成において大きなウエイトを占めていることに間違いのないと思いました。改めて関わった生徒の数を見たときに職責の重さを痛感しているところです。

昨年3月に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」がスポーツ庁から指針として出されました。そこには中央競技団体と日本中学校体育連盟が都道府県教育委員会と連携して、適切な休養日等の設定を各学校に進めていくように定めています。このように中学校の運動部活動は大きな改革の時期を迎えています。私は退職まであと1年ありますが今回の受賞に甘んじることなく、熊本県の中学生のために、まだまだ汗をかかなければならないと思っています。本当にありがとうございます。